

## 『第10回 教育と安全フォーラムinひろしま』を終えて

実行委員長 山村 保古

2015.2.5.

第10回となる本フォーラムは、今年も広島県内外から多くのご参加をいただき、実りある研修として盛会に終了することができました。

今回は、東京学芸大学 渡邊正樹教授による「今、求められる学校安全」と題しての講演においては、将来を見据えた知識と具体的対応についてのご教示をいただき、教職員としての心構え、安全学習の取組、教職員として学び続けることの大切さなどを再認識することができました。

また、体験交流では、参加者が13グループに分かれ、初期判断や校内での対応に反省や課題が残った“ひやり ハット”の体験を中心に交流を深めました。助言の先生方からは、日常の教育活動の中でも起こりうる緊急場面を想定した事故防止の取組と教育、いざというときに機能する救急体制の在り方、保護者の立場に立った丁寧な説明と対応など、多くのご示唆をいただくことができました。

さらに、今年初めて取り入れましたシンポジウムでは、学校長、教諭、養護教諭、日本スポーツ振興センターそれぞれのお立場から「再発防止を視野に入れた事件・事故の取組」をテーマに、ご提言をいただき、意見交流を行いました。

多くの参加者に実行委員も交わり、学校安全について協議することができましたことは、ご参加いただきました皆様方とともに、日々の執務の見直しと今後の教育実践に向け、大変有意義であったと感じています。

今年度の広島フォーラムは、平成26年8月の広島市土砂災害で犠牲になられた方々、被災されている児童生徒等の思いを胸に行った特別な年となりました。今後も学校の安全文化の創造に向け、スタッフ一同、参加者の皆様方と共に研鑽を重ねたいと考えています。改めて本フォーラムにご参加、ご協力いただきました皆様に、心より感謝を申しあげ、報告とさせていただきます。

会場の様子（グループ別体験交流）

